

苫小牧市立中央図書館の自己評価並びに自己評価説明及び点検を踏まえ実施した図書館協議会委員による評価は以下のとおりです。

令和8年2月24日

苫小牧市図書館協議会 会長 井村 友美

<総評>

令和6年度の苫小牧市立中央図書館の運営については、引き続き高い利用者満足度が維持されており、職員の接遇やサービスの向上に向けて日々取り組まれている姿勢が見受けられました。

成果指標でもある郷土行政資料について、蔵書冊数、デジタル化ともに目標値を超えており、市民が近づきにくい印象のある郷土資料の活用についても、姉妹都市である日光市をはじめ他の自治体との資料の交換展示を行うことで広く市民への周知に取り組んでいただいている点は評価できます。また、乳幼児から高齢者まで幅広い利用者の環境整備に努められており、特に「赤ちゃんと楽しむ絵本ひろば」の参加人数は昨年度に比べて大きく増加しており好評であることがわかります。乳児期から本に親しむ経験は、生涯にわたる読書習慣へとつながっていきますので、今後も環境整備のほか、読み聞かせボランティア支援の拡充に継続的に取り組んでいただき、子どもが自発的に読みたい本を探しに来るような図書館になることを期待します。

また、学校図書館との連携はすでに行われておりますが、全ての子どもたちが本に触れられる機会が与えられた学校図書館は貴重な場所であることから、さらなる連携の充実を希望します。

今年度も様々なイベントを実施していただきましたが、特に苫小牧市図書館ぐるっと「図書印」旅では、市内にある8つの図書コーナーと連携して実施され、「普段行かない図書館(図書コーナー)へと足を運ぶきっかけとなった。」など好意的な意見が多数寄せられており、市内全域の図書館(図書コーナー)利用の促進を図れたのではないかと感じております。また「出張!図書館」、「出張!移動図書館車」におきましても、児童センターや各種イベント会場に積極的に出向いたことにより図書館を利用していない市民の方への良いアプローチになったのではないかと思います。今後も、図書館へと足を運びたくなるような魅力あるイベントの開催を期待しております。

単年度目標としては、未達成の指標もあり特に新規利用登録者数の減少が気になります。学校や地域との連携を強化し図書館活動の周知に努めてください。

総評並びに以下に記載する各委員の意見のまとめのほか、アンケート記載の利用者意見等を参考に、更なる図書館運営の充実を努めてください。

「基本目標1 基礎的な図書館サービスの充実」について

【評価する点】

- ・「赤ちゃんと楽しむ絵本ひろば」の参加者が順調に伸びているのは大きな成果であると思う。
- ・「赤ちゃんと楽しむ絵本ひろば」や「こそだてtime」など安心して乳幼児が利用できるよう配慮されており良いと思う。
- ・お客様アンケート結果では、スタッフの対応の良さに満足されている来館者が多く、スタッフの質の良さを感じます。

【改善を要する点】

- ・市内に住む外国人は今後ますます増加していくことから、外国語案内だけでなく、多文化サービスを検討していく必要があると思う。
- ・利用者からも要望が強いエアコンの整備について考えてみてはどうか。
- ・お客様アンケートについて、図書館を利用していない又は利用したことのない方へのアンケートが必要である。
- ・お客様アンケートでは、設備に対する指摘が多い。すぐに対応することは難しいと思うが、今後に生かせるように内容を整理すべきである。
- ・1階のトイレを広く明るくしたほうがよいのではないか。

「基本目標2 家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」について

【評価する点】

- ・レファレンスの充実、図書館コンシェルジュの配置など利用客が気軽にレファレンスができる取り組みに期待している。
- ・レファレンスの受付件数が倍増している。PR や利用しやすくした点で高く評価できる。
- ・「図書印」のアイデアは素晴らしい。
- ・「やさしい法律セミナー」や「郷土セミナー」など多彩なイベントを開き、広い層にアピールしている点は評価できる。
- ・苫小牧市の文化の発展のため「郷土セミナー」を行っている点について評価をしたい。
- ・レッドイーグルスとの連携や絵本カルタなど多彩なイベントを多数行っている点を評価したい。
- ・「新年カルタ大会」や「やさしい法律セミナー」など冬季間のイベントは来館者の増につながり良いと思う。

【改善を要する点】

- ・レファレンスが好評なので、その内容を分析してほしい。
どのような資料にアクセスしようとしているのかがわかれば、ニーズの把握となり、蔵書計画の参考になると思う。

「基本目標3 教育的役割を重視した取組の推進」について

【評価する点】

- ・「出張！図書館」や「出張！移動図書館」の取組
- ・保育園や児童センターでの「出張！図書館」
- ・ヤングアダルトコーナーについて、POP 展示は工夫されており、見ているだけで興味がわいてきます。これからも力をいれてほしい。
- ・市内ボランティア活動の周知について、まずは知ってもらうことが大事。次の一步に期待したい。
- ・子どもから大人まで、文化セミナーの開催は大きな意義がある。図書館が人と人を、人と情報をつなぐための拠点であるために必要なイベントであると思う。

【改善を要する点】

- ・子どもの不読率を減らすため公共図書館と学校図書館の連携の強化について、両者の司書が情報を共有し、協力していく新たな事業が必要だろう。
- ・読書離れが進んでいる中学生や高校生へのアプローチ
- ・夏休みが長くなったので児童クラブへ移動図書館車を派遣してみてもどうか。

「基本目標4 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築」について

【評価する点】

- ・「出張！図書館」は図書館利用の周知やきっかけになると思う。どんどん出かけてほしい。
- ・移動図書館車での周知活動
- ・利用者満足度について、「満足」、「やや満足」が95.5%となっている点について一定の評価ができる。

【改善を要する点】

- ・資料のうち年齢別貸出人数の項目について「60歳以上」で終わっているが、人生100年時代であり、それ以降の項目（「70歳以上」など）も増やしてほしい。
- ・事業の周知に関して、中央図書館の入り口に一目でわかる予定表が掲示されると良いと思う。
- ・図書館に来られない高齢者へのアプローチについて工夫の余地があると思う。（例えば、図書館とコミセンとの巡回バスやふれあいサロンへの移動図書館車派遣など。）
- ・利用者満足度だけでは、図書館に対する市民評価にはあたらない。適正なアウトプット評価をするためには、利用していない人を含めた市民全体の調査が必要であろう。
- ・入館者数、貸出冊数等の指標が下がっていることは深刻な状況である。原因を分析し、それを踏まえて対策を考えてほしい。